

# 関東地方における千年村の立地特性に関する研究

○相原雄太\*  
橋本 慧\*  
梶尾智美\*  
佐藤 勝\*\*  
木下 剛\*

## 1. 研究背景・目的

千年村とは、千年以上にわたり、地形・地質といった集落の基盤としての「環境」と、それに適応する集落の「構造」、また、そこに展開される「共同体」が三位一体となり、度重なる自然的社会的災害・変化を乗り越えて、生産と生活が持続的に営まれてきた集落・地域のことを指す<sup>1)</sup>。矢嶋<sup>2)</sup>によると、古い集落ほど集落立地に際して、自然的に適した土地を選んでいることが特徴だとしている。さらに、古い集落の立地は水との関連が密接であること、その時代の経済活動の様態や交易圏と関係があることにも言及している。そこで、本研究は、日本の政治・経済の中心地であり、中央部には関東平野、北西部には山岳地帯、東西部には太平洋を有し、様々な地形立地が見られる関東地方を対象とし、地形、河川及び街道と千年村の関係に着目し、その立地特性を明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

### 1) 千年村の特定方法

古代より続く集落を特定する方法として、角川日本地名大辞典から平安時代に成立した古代律令制における行政区画である国・郡・郷の名称を網羅した和名類聚抄に記載されている地名を抽出した。また、抽出された記載地名をさらに角川日本地名の地名編で検索し、各郷名の説明文から現在における場所を特定した。この方法は早稲田大学建築史学研究室中谷礼仁らの研究グループが考案したものである。

### 2) 分析方法

上記の方法で特定された関東地方に位置する全千年村 368 村を地形分類図<sup>3)</sup>、河川分布図<sup>4)</sup>及び、五街道細見・付図<sup>5)</sup>にそれぞれプロットし、計数・比較を行い、分析・考察した。

## 3. 結果

### 1) 地形と千年村立地の関係

本研究の結果、地形と地形の境界域に立地する千年村が多く、特に低地と台地の境界域に立地する千年村が一番多かった(表 1<sup>6)</sup>)。また、火山地に関係する地形区分(火山地、台地と火山地の境界域、山地と火山地の境界域)において、千年村の分布が少なかった(図 1<sup>7)</sup>)。さらに、関東地方中央部で千年村の分布が少なかった。

### 2) 千年村と河川・街道の関係

関東地方における千年村の分布は五街道・支線・助街道と河川が隣接する地域に密集していた(図 2<sup>8)</sup>)。

## 4. 考察

低地と台地の境界域に千年村の分布が多いのは、平坦で安定した台地を生活空間とし、水をひきやすく水田利用がしやすい低地を生産空間とする集落構造を形成しやすかったためだと考えられる。このような集落構造は、地震や洪水といった度重なる自然災害に対して強い防災性を持ったこと、水田利用による高い生産性があったのだと考えられる。つまり、低地と台地の境界域は生活と生産が持続的に営まれやすかったと考えられる。

それに対して、火山地に関係する地形区分において千年村分布が少なかったのは那須岳、日光白根山、赤城山、草津白根山といった火山の影響を受けて、生活と生産が持続的に営むことが難しかったからだと考えられる。また、関東地方中央部において、低地と台地の境界域があるにも関わらず、千年村の分布が少なかったのは、関東大震災(1923年)や第二次世界大戦(1939~1945年)などの自然的社会的災害の影響のみならず、日本の政治・経済の中心地であることから都市化に伴う社会的変化によって、生活と生産が持続的に営まれにくかったためだと考えられる。

集落が河川に近接して立地するという事は、洪水などの水害に見舞われる可能性があるが、同時に生活・生産に必要な不可欠である水資源を得やすいというメリットがある。さらに、街道沿いに立地することで他集落・地域との経済的交流がしやすかったと考えられる。これらの理由から、五街道・支線・助街道と河川が隣接する地域に千年村が密集していたと考えられる。

5 まとめ・今後の展望

関東地方における千年村の地形立地特性として、低地と台地の境界域に多く分布していたこと、関東地方中央部・火山地に少なく、河川と街道が近接している地域に密集していることが明らかになった。

本研究によって関東地方における千年村の立地特性を明らかにすることができた。しかし、一村ごとの詳細データによる考察が不足していた。今後は現地調査などを実施し、詳細データを集め、考察内容をより深めていく必要がある。

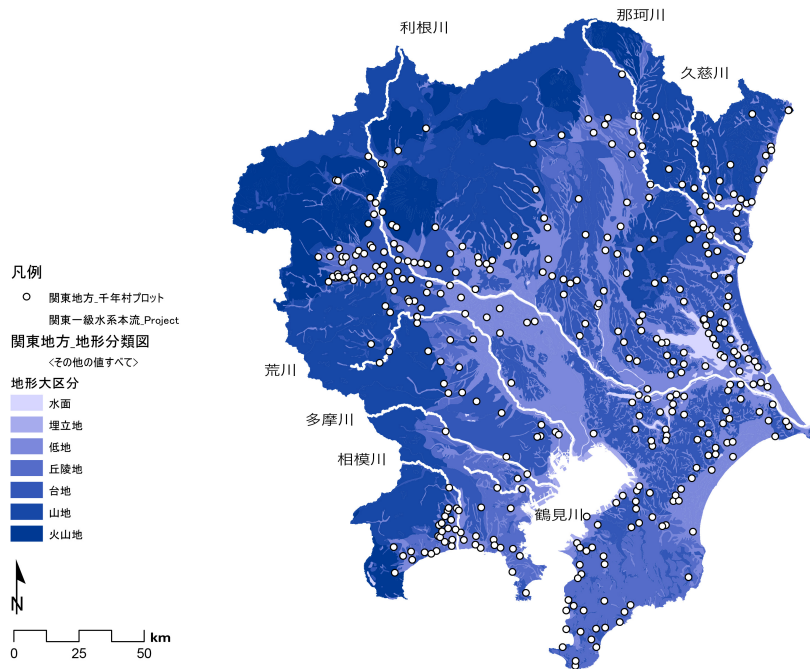


図1 関東地方における千年村と地形分類図

5. 補注・引用文献

- 1) 千年村プロジェクト (<http://mille-vill.org>)
- 2) 矢嶋仁吉 (1976) 『集落地理学』古今書院
- 3) 国土交通省国土政策局国土情報課の50万分の1土地分類基本調査地形分類図
- 4) 国土交通省国土政策局国土情報課の国土数値情報河川データ
- 5) 岸井良衛 (2004) 『新修五街道細見』青蛙房
- 6) 前掲5)をもとに計数し作成。千年村プロットが地形同士の境界線に接していた場合は各地形の境界域とした。
- 7) 前掲2)、3)に関東地方の全千年村を ArcGIS を用いて、プロットして作成。
- 8) 前掲4)に関東地方の全千年村を重ねて作成。

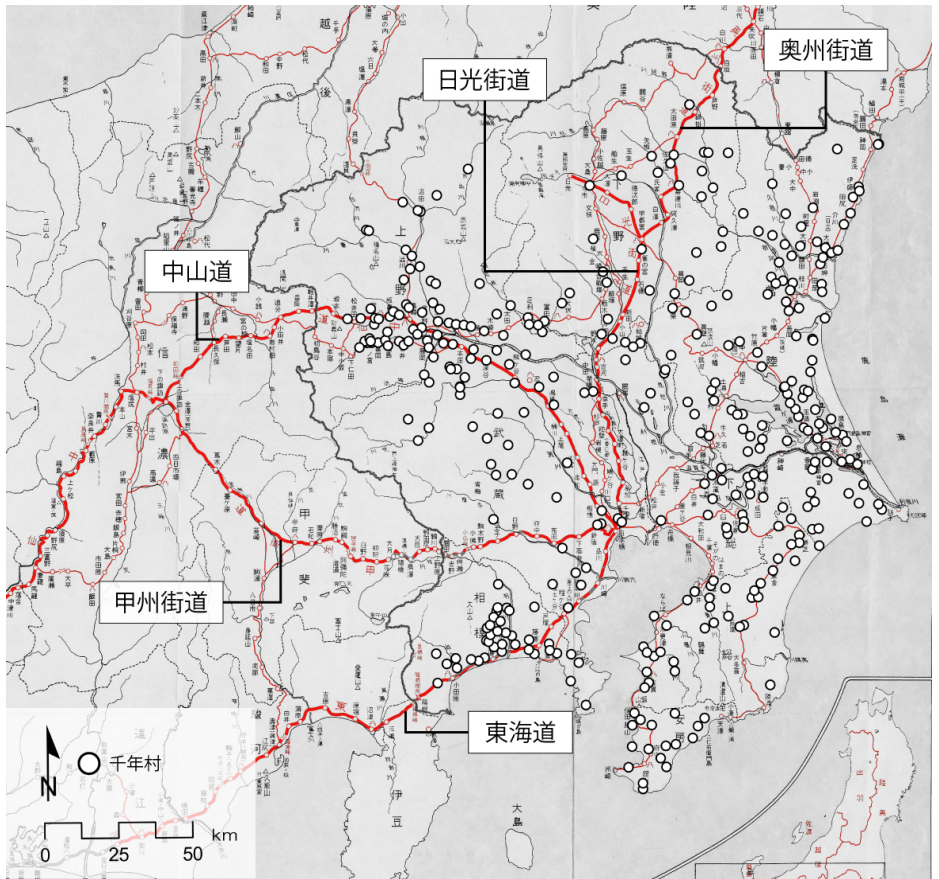


図2 関東地方における千年村と河川・街道の関係図

表1 関東地方における千年村と地形分類表 (※下段は各地形の境界域)

	水面	埋立地	低地	丘陵地	台地	山地	火山地
千年村(個数)	0	0	53	6	44	5	4

	低地と丘陵地	低地と台地	低地と山地	丘陵地と台地	丘陵地と山地	台地と山地	台地と火山	山地と火山地
千年村(個数)	33	151	12	31	2	20	2	5